

# 横浜のために力を尽くした人々

## 1 単元名 「ヘボン～言葉の壁を越えて～」

## 2 単元目標

ヘボンの業績「辞書編纂」「医療」を中心に調べることを通して、ヘボンのはたらきや願い、工夫や努力について理解し、それによって当時の人々の生活が向上したことを考えるようにする。

## 3 単元の評価規準

- ・地域の発展に尽くした先人の働きへの関心を深め、地域社会や横浜に対する誇りと愛情をもち、その発展を願うことができる。
- ・ヘボンの業績を調べ、それについて考えることを通して、人生を尽くした先人の働きについて意欲的に追究することができる。

### 【社会的事象への関心・意欲・態度】

- ・ヘボンが活躍した当時の社会や社会の発展に対する人々の願いについて考えることができる。
- ・ヘボンの働きや苦心などについて考え、それに対する自分の考えを表現することができる。
- ・調べたことやまとめたこと、考えたことをわかりやすく表現することができる。

### 【社会的な思考・判断・表現】

- ・開港期の横浜や、ヘボンと日本人との関わり、辞書作りの苦労や努力について、年表や資料を読み取ったり、図書資料・インターネットを活用したりしながら、具体的に調べることができる。

### 【観察・資料活用の技能】

- ・当時の歴史的な背景や、人々の生活について知識が深まっている。
- ・ヘボンの願いや努力によって、開港期の横浜に豊かにつながりが生まれていったことが分かる。

### 【社会的事象についての知識・理解】

## 4 単元について

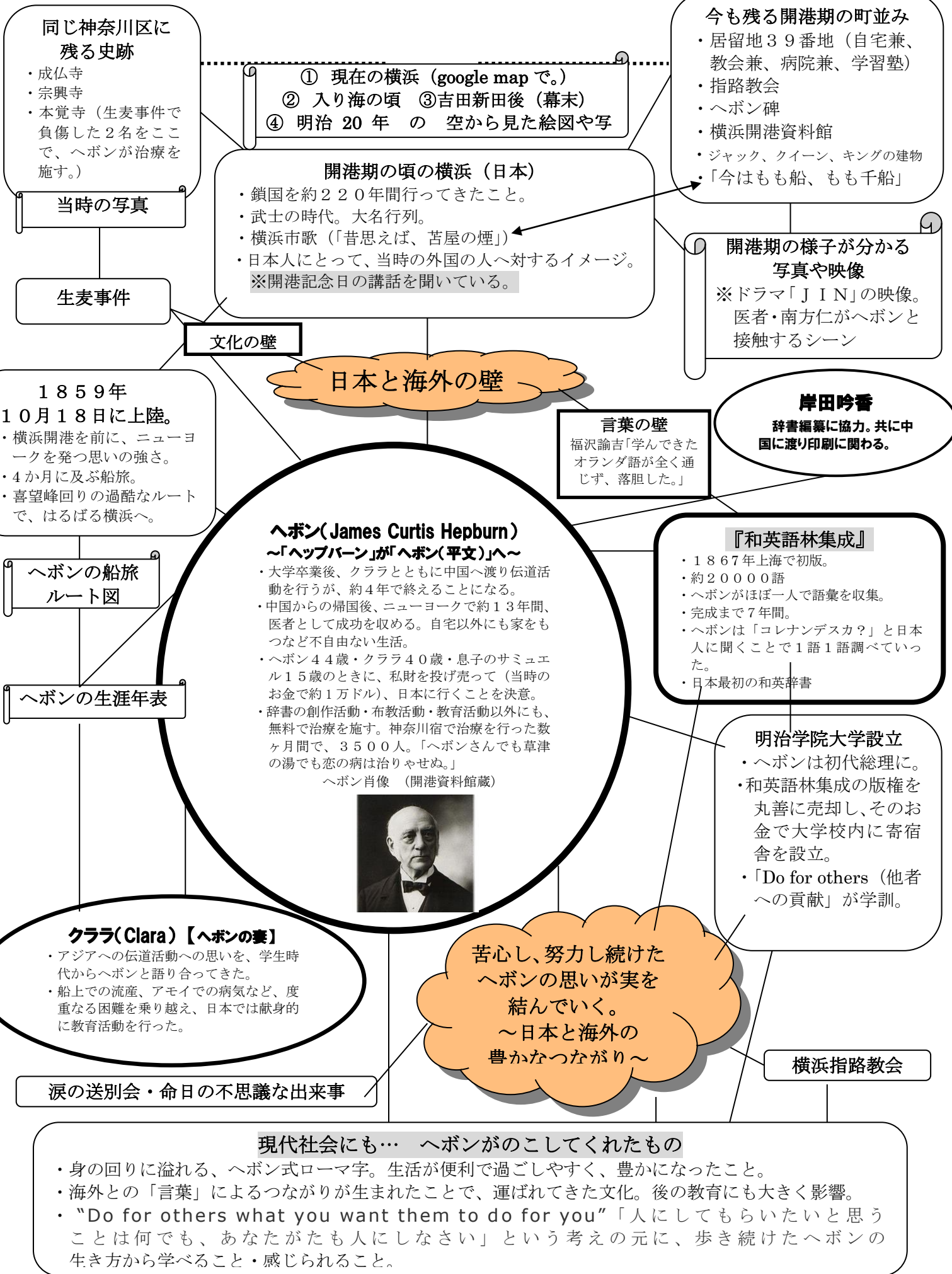
本単元は、およそ 150 年前の歴史的な事象であり、また人の生き方に関わる学習である。授業改善の視点として、子どもの発達段階を考慮した単元構想・指導計画の作成、及び具体的な資料の準備・活用により、子どもたちが具体的に追究できるようにすることが大切である。

ヘボンの大きな業績としては、「医療活動」「和英語林集成（和英・英和辞典）編纂」「教育活動」「聖書の翻訳」があげられる。それらは「宣教」という大きな目的があったからこそであるが、そのためにも「言葉による理解」「他者理解」「コミュニケーション」がとても大切だと考えていた。220 年間、国を閉ざしていた日本の港が開かれ、「日本人」と「外国人」の間に様々な面で大きな壁があった時代、ヘボン氏が苦心と努力を重ね行った業績の大きさを感じられるような単元構成にしたい（※単元構想図）

アメリカを出発し、半年の船旅を経てヘボンが上陸した地は今の横浜市神奈川区にあたり、神奈川区内の小学生、とりわけ東海道筋の小学生には成仏寺、宗興寺という寺院名は馴染み深いと思われる。授業の一環として跡地巡り（社会科見学）を行う予定であるが、通ったことのある道に、子どもたちにとって身近な場所がヘボンの生きた時代につながっていることに気付いた時、子どもたちはさらに追究心をもって学習に臨めるであろう。

また、開港期の時代背景を子どもたちは学んでいない。そこで、単元の前半には、開港期の横浜の様子や人々の生活について理解を深める時間を大切に扱っていく必要がある。横浜が開港期に文化の入り口となっていたという側面を知ることによって、地域社会に対する誇りと愛情が育まれていくことを期待している。

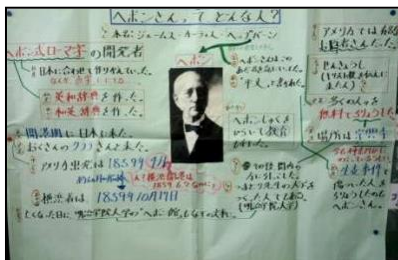
# 5 単元構想図



主な学習活動と内容	めあて○、主な資料●、教師の支援◇
<p>1 絵地図や航空写真をもとに街の様子について話し合う。</p> <div data-bbox="137 338 544 461" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>現在の横浜と入り海のあった横浜のまちを比べてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治時代の前は入海だったんだ。</li> <li>・ 外国からも多くの人</li> </ul> <p>がきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国の人でも日本人もすぐ仲良くなれたのかな。</li> <li>・ 外国から新しいものがたくさん入ってきたんだね。</li> <li>・ 今でも使われているものってなんなのかな。</li> <li>・ 150年前の頃の横浜の様子を調べたいな。</li> </ul>	<p>○ 当時を生きる人たちの思いが重なり合いながら移り変わってきた横浜のまちの昔を知り、開港の頃、自分たちのまちからどのような文化が広がっていったのか、関心をもつことができる。</p> <p>◇ google map で、現在の航空映像を横浜駅や神奈川区を中心にみる。現在の海と、江戸時代・明治期の航空写真と比べる。吉田新田についてもふれる。</p> <p>● 入海の頃、明治時代の様子を空から見た絵図、写真</p>
<p>2 開港の頃の様子について調べよう。</p> <div data-bbox="165 770 852 871" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>明治時代になり、外国からはどんな文化が日本に入ってきたのかな</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横浜市歌の歌詞を掲示し、その当時の様子を話し合う。</li> <li>・ 横浜市歌「苦屋の煙」⇔「今はもも船、ももち船」大きな変化があった。</li> <li>・ いろいろな文化が入ってきたんだね。</li> <li>・ 初めて外国の人を見た日本人は驚いたり、怖かったりしたんだと思う。</li> <li>・ 事件も起こっているんだね。</li> </ul>	<p>○ 開港期には、横浜が様々な文化の入り口となっていたことを知り、それまでは海外との結びつきをほとんどもたなかった時代背景を知ることができる。</p> <p>● 市歌「歌詞」</p> <p>● 横浜浮世絵(文明開化)</p> <div data-bbox="1034 981 1406 1167" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">神奈川横浜新開港図 貞秀画 横浜開港資料館蔵</p>
<p>3 アメリカから来たヘボンを知る。</p> <div data-bbox="165 1323 852 1440" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>当時、日本に住んでいた人たちは、外国から来た人を見て、どんなことを思ったのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服装も言葉も全く違い驚いた。</li> <li>・ 言葉が通じないから怖かったと思う。</li> <li>・ 外国から来た人のほうが日本人を恐れたと思う。</li> <li>・ ペリーという人の顔を恐ろしい顔に描いてるね。</li> <li>・ やはり、言葉が一番の問題だったと思う。</li> </ul> <div data-bbox="165 1753 826 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ヘボンについて調べてこよう。(課題)</p> </div>	<p>● 「生麦事件」</p> <p>○ 220年間も国を閉ざしていた当時の日本人が、外国から来た人に対し、様々な面で壁を感じていたことが分かり、その時期に来日した「ヘボン」とは、どのような人物であったか、調べる意欲をもつことができる。</p> <p>● ペリーの様々な肖像写真</p> <p>◇ 「この言葉の壁をなくそうと立ち上がった外国人がいた」ことを知らせる。</p> <p>● ヘボンの肖像</p> <p>◇ 図書で調べる、家族に聞く、ネット検索等の方法をアドバイスする。</p> <p>◇ ヘボンについて調べてきたことを発表する中で板書の整理をし、理解を促す資料の提示をする。</p>
<p>4、5 ヘボンについて調べことを発表し、話し合う。</p> <div data-bbox="165 1973 852 2040" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ヘボンってどんな人？調べてきたことを発表し合う</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘボン式ローマ字の開発者</li> <li>・ アメリカでは有名なお医者さんだった。→日本に来て、</li> </ul>	<p>● 肖像、明治の頃の居留地の地図</p> <p>◇ 様々な発表があるが、必要に応じて準備</p>

多くの人を無料で治療した。

- ・医療を施した場所は、今の神奈川県に残っている宗興寺。
- ・ヘボン塾で「教育」を行った。
- ・日本語の研究をして、英和辞典・和英辞典を作った。
- ・生麦事件で傷ついた人を治療した。



6 「ヘボン教科書」を読み、ヘボンの思いを読み取る。

- ・人物像・半年間の船旅って、すごい・・・。
- ・息子の死や、病気を乗り越えるってつらいと思う。
- ・「コレナンデスカ？」と1語1語聞いて回ったなんてすごい。
- ・無料で治療するって、器具とかのお金はどうしたのか。
- ・5か月の間に3500人を治療したなんて驚いた。
- ・治療した施設のあったお寺に近くだから行ってみたいな。
- ・宗興寺や成仏寺の様子を見てみたい。
- ・生麦事件の時に治療を施した本覚寺を見てみたい。
- ・なぜ、4月に出発しようとしたのか。
- ・今でも辞書は残っているのか。
- ・辞書をつくるのはどれほど大変だったのか。
- ・なんで日本の人にここまでしてくれたのか。
- ・身の周りのローマ字を探することで、どれだけ世の中が便利になったか調べたい。

### 社会科見学に向けて、学年オリエンテーション

7、8 ヘボンの足跡を見に行く。

- ・神奈川宿という東海道の宿場にあるお寺に住んだんだ。
- ・無料で診てあげたんだけど、信頼がないと病人もこないよ。きっとやさしい人だったんじゃないかな。

成仏寺



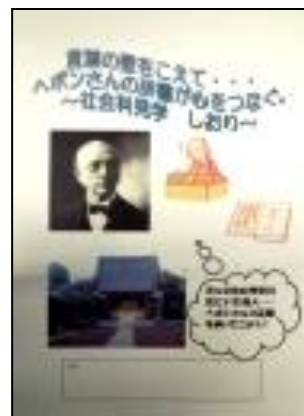
しておいた資料で理解を深めるようにする。また、地図に位置づけていく。

◇「ヘボン式ローマ字表」は、日本語の発音をより正確に外国人が発音できるようにアルファベットで表示したことがわかるようにする。

- ローマ字のある教科書、駅や看板の写真
- 「ヘボンの年表」(※本単元の実践では、ヘボンの人柄や行動が具体的に分る「ヘボン教科書」と呼ぶ資料を教師がまとめ、子どもたちに配布した。)

○「ヘボン教科書」を読むことで、ヘボンの業績を順を追ってとらえることができるとともに、より深く人物像に迫っていくことができる。また、次の社会科見学での意欲を高め、学習の見通しをもつことができる。

- 見学のしおり



- ヘボンの足跡を示した地図

◇寺院の見学は、マナーを守り、交通安全に注意して出かけるようにする。

○成仏寺・宗興寺・本覚寺、と今も残るヘボンの足跡を見る中で、当時のヘボンの気持ちに寄り添いながら、理解と知識を深めることができる。

## 9 ヘボンの足跡めぐりを振り返る。

ヘボンの暮らした寺を巡り、横浜で生活するヘボンの思いや願いについて考えよう。

- ・クララが棒で殴られていたなんて知らなかった・・・ヘボンは帰ろうとは思わなかったのかな。
- ・日本人が警戒している中、「コレナンデスカ」を言い続けることは怖かったのでは・・・。
- ・「警戒」⇒「信頼」に変わっていった。
- ・ヘボンの辞書は今もあるのかな。
- ・ものすごい苦勞で作っていったことは分かった。
- ・もしヘボンがいなかったら、どんな日本になっていたのだろう。

## 10 ヘボンが作った辞書について調べる。

辞書作りをするにあたって、当時、ヘボンが苦勞したことはどのようなことだっただろう。

- ・日本語の先生はいないから作るのが大変。
- ・当時は怖いのに、多くの日本人に「これ何ですか」と言って回った。
- ・当時の外国人役と日本人役に分かれシュミレーションをする。
- ・当時の日本人はここでローマ字がないと意味を伝えることはできなかったんだ。

## 11 ヘボンの願いについて話し合う。 **本時**

ヘボンが思い描いた世の中はどのような世の中だろうか。

## 12 今の日本人の生活について考える。

ヘボンの生き方を振り返り、感じたことや考えたことを伝え合おう。

◇市歴史博物館の協力を得て、ヘボンが医療活動の拠点とした宗興寺、横浜での生活また英語塾の出発点である成仏寺を訪ねる。

○ヘボンの足跡を見て感じたこと・考えたことを振り返りながら、ヘボンの願い・思いの強さに気付いていくことができる。また、ヘボンが活躍した当時の人々の思い・願いについて考えることができる。 ※「クララが殴られ…」は、東京有明医療大学雑誌 Vol. 3:29-35, 2011「ヘボン博士の業績」中山清治氏による。

●ヘボンのアメリカからの航路が(日数やその過酷さも)分かる資料。

※宿題:「身の回りのローマ字を探してこよう」

○現代の「和英辞書」と「英和辞書」の使い方を理解し、当時の人々の生活にどれほど役立ったものかを感じる。また、ヘボンの辞書作りにあたって、苦勞したことはどんなことであったか考えることで、ヘボンの思いの強さを感じていくことができる。

●現在の和英、英和辞書

●「和英語林集成」 横浜開港資料館蔵

●日本を出るときに売り払った私財の金額

●ヘボンのメモ帳



○様々な苦勞や障害に向き合ったヘボンの思いについて資料をもとに考える。

○これまでの学習を通してヘボンから学んだことを話し合う。

●これまで活用した資料、ノート等

## 7 本時目標

強い信念をもって情熱を傾けてきたヘボンの苦労や努力に目を向けながら、ヘボンの目指したよりよい社会について考えを深め合い、ヘボンが大切にしていたことに気付くことができるとともに、開港期の日本にもたらした業績の偉大さを感じていくことができる。

## 8 本時展開

○学習活動 ・予想される子どもの反応	指導上の留意点○ 資料● 評価☆
<p>○前時、子どもが「見たい」と言っていたヘボンのメモ帳の写真を 見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ヘボンが思いえがいたのは、どんな日本だったのだろう。</p> </div> <p>○学習問題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、ちゃんと言いたいことが伝わって、争いごとが少なくなる世の中だと思います。生麦事件という恐ろしい事件の治療をしたから。</li> <li>・医療の技術ももっと上がって、病気で苦しむ人が少なくなってほしいと考えたと思います。伝わる言葉があれば、手術の仕方もあることができるから。</li> <li>・ローマ字が町の中にあふれて、外国人も生活しやすい世の中。</li> <li>・クララが棒で殴られたことはとてもショックだったと思うからアメリカに帰りたと思ったこともあったと思う</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○どんな時に帰りたと思ったのか、考えを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカでは何不自由ない暮らしを思い出した時、後悔した。</li> <li>・生麦事件のようなことがあって、怖くなったと思う。</li> <li>・クララが棒で殴られたときは一緒にアメリカに帰ろうとしたんじゃないか。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○それでも実際に頑張ることができたのはなぜなのか、「ヘボン像に刻まれた言葉。明治学院大学の校訓等」をもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Do for Others (他者への貢献)」という強い信念をもっていたからだと思う。</li> <li>・当時の日本の人たちに外国の人とも理解しあえることを知ってほしかった。</li> <li>・日本の人たちが医者として信頼してくれたし、和英辞書は外国から来た人との理解を深めることができたから。</li> </ul> <p>○次時の学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ヘボンの生き方から感じたことを伝えあおう。</p> </div>	<p>○ヘボンの苦労を感じ取れるメモ帳を見た後、学習問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●当時アメリカを出るときに売った私財の合計額（必要があれば掲示）</li> </ul> <p>☆ヘボンの苦労や努力に目を向けながら、ヘボンの目指したよりよい社会について考えをもつことができ、分かりやすく表現することができる。</p> <p style="text-align: right;">(思考・判断・表現)</p> <p>○苦労や努力ばかりでなく、人間的な弱さももっていたらろうことも考えさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アメリカでの生活と日本での生活の比較の表</li> <li>●悲しい出来事をピックアップした年表</li> <li>●ヘボンの手記やヘボンの記念碑、大学の校訓等</li> </ul> <p>○板書にある友だちの発言とつなげながら自分の考えをまとめ、ノートに書く時間をとる。</p> <p>☆ヘボンが大切にしていたことに気付くことができるとともに、開港期の日本にもたらした業績の大きさについて考えを深めていくことができる。</p> <p style="text-align: right;">(知識・理解)</p>

## 9 博物館と学校の連携

### ① ヘボンに関する資料

横浜開港資料館では、25年度10月から12月にかけて、33年間を横浜で暮らしたヘボンの企画展を開催した。新資料や当時のヘボン邸のジオラマなど、ヘボンの足跡が具体的に理解できる資料が多く展示された。展示された資料の大半が図録にまとめられてあり、授業で活用できるものも多い。

- ・ヘボンの肖像写真
- ・幕末居留地パノラマ写真(ベアト撮影)「開港の頃の横浜浮世絵、写真」
- ・和英語林集成【画像】等



ヘボン夫妻

横浜開港資料館蔵

←【ジオラマ『横浜居留地39番地ヘボン邸』明治学院大学図書館所蔵】

(馬車に乗り帰宅するヘボン夫妻を出迎える塾生など、当時の様子が再現されている。三角屋根の建物が居留地39番地のヘボン邸である。)

⇒明治時代の居留地39番での生活を具体的にイメージする一助となる。

### ② ヘボンの足跡をたどる (エドューケーターによる解説)

ヘボンは幕末に結ばれた修好条約に基づき、日本が開港した数ヶ月後にアメリカより来日するが、当時の日本は開港したばかりであり、尊王攘夷を声高に叫ぶ侍も多く、医者として被害者の治療に当たったヘボンであるが、生活をするには日々過酷な状況であったことは想像するに余りある。

神奈川県、中区、西区はヘボンの居宅、施療所等も近く、当時のヘボンの生活の場を訪れ、足跡を追うことで人間ヘボンの思いや葛藤などについて想像して話し合う際にプラスに働くものと考えられる。今回アップした指導案では、「ヘボンはどんなところで生活していたのか」という子どもたちの興味と、「ヘボンの生きた時代を子どもたちに引き寄せたい」という教師の思いから、成仏寺、宗興寺を訪れ、エドューケーターの解説を学習に取り入れている。当時の様子を現地で想像することで、「ヘボンがより身近に感じられた」と感想文には書かれている。

#### 【居留地39番ヘボン邸跡】



#### 【宗興寺ヘボンの碑】



#### 【社会科見学の様子】

